



UMIGYO

海からはじまる生業と生きがい

IKIGAI



海産物の宝庫。御食国「若狭国」

わかさ たかはま

福井県若狭高浜＝人口約9,500人の漁師町。



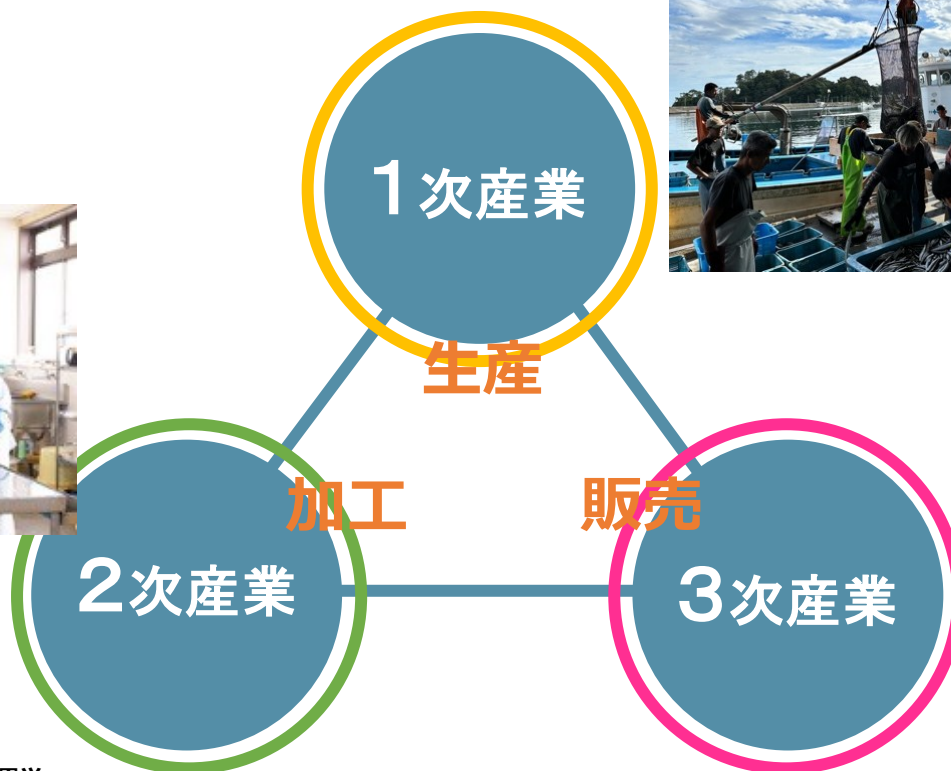
皇室・朝廷に質の高い海産物を
納めていた「御食国(みけつくに)」。
若狭国、志摩国、淡路国の3国の1つ
である。

御食国・若狭には、
恵まれた海産資源を域外に
届ける歴史(土壌)がある。

漁師町「若狭高浜」再興というミッションのもと

漁師（若狭高浜漁業協同組合）

株式会社
まちから



ウミカラ

UMIKARA



- ・水産加工場「はもと加工販売所」運営
- ・地域産品をセレクト販売する「UMIKARA select」運営
- ・通販サイト「UMIKARA select」運営
- ・昼市、にほん海シアターなどイベント／広報PRの企画、運営

- ・魚特化型スーパーマーケット
- ・魚、海テーマのセレクトショップ
- ・うみから食堂
- ・イベント（昼市など）

地域商社「株式会社まちから」とは

地域商社 株式会社まちから

海の6次産業事業

水産加工事業 外販 販路



- ・UMIKARA
- ・近隣スーパー
- ・道の駅、SA、ほか観光施設
- ・ローカルセレクトショップ
- ・飲食店
- ・百貨店
- ・産直、通販サイト
- ・海外

・地の水産物を活用した加工場事業

地域密着型 セレクトショップ°事業



・地域のええもんを取り揃えたセレクトショップ

イベント運営事業



- ・昼市（UMIKARA）
- ・にほん海シアター（地域連携）
- ・そのほかイベント、催事出店

地域商社事業

地域産品 開発事業



ふるさと
納税

・地の農産物を活用した商品開発

通販事業



・セレクトショップの通販事業部

100年後も あったらいいなを 海辺で生み続ける

美味しい魚、美しい海、民俗文化、祭、砂浜を走る子どもたち、大事なコミュニティ。

守りたいと立ち上がった人が、この町にはたくさんいる。

力や知恵を持ち寄り、関わり続けてくれる「そと」の人たちがたくさんいる。

そんな人たちがいたからこそ、高浜は新たな価値を生み出してこれた。

「守る」と「生み出す」この循環が高浜には息づいている。

そしていま、この循環に「稼ぐ力」が加われば、持続可能な未来（地域）へと進み出すことができる。

地域課題をチャンスに変え、稼げるモノへと育てよう。

この町に根差した、^{なりわい}生業を創ろう。

水産業を基盤とした
ローカルビジネスを育成する

海業 = 生業



01. 海の6次産業化

稼ぐ

02. 海業の新しいカタチ

生み出す

03. サステナブルタウン

魅力

二次産業（加工）の担い手として
持続可能な水産業に取り組む

水産業の「関わりしろ」を広げ
海辺のワクワクを生み出し続ける

生業（なりわい）の育成、
パブリックベンチャーの創出

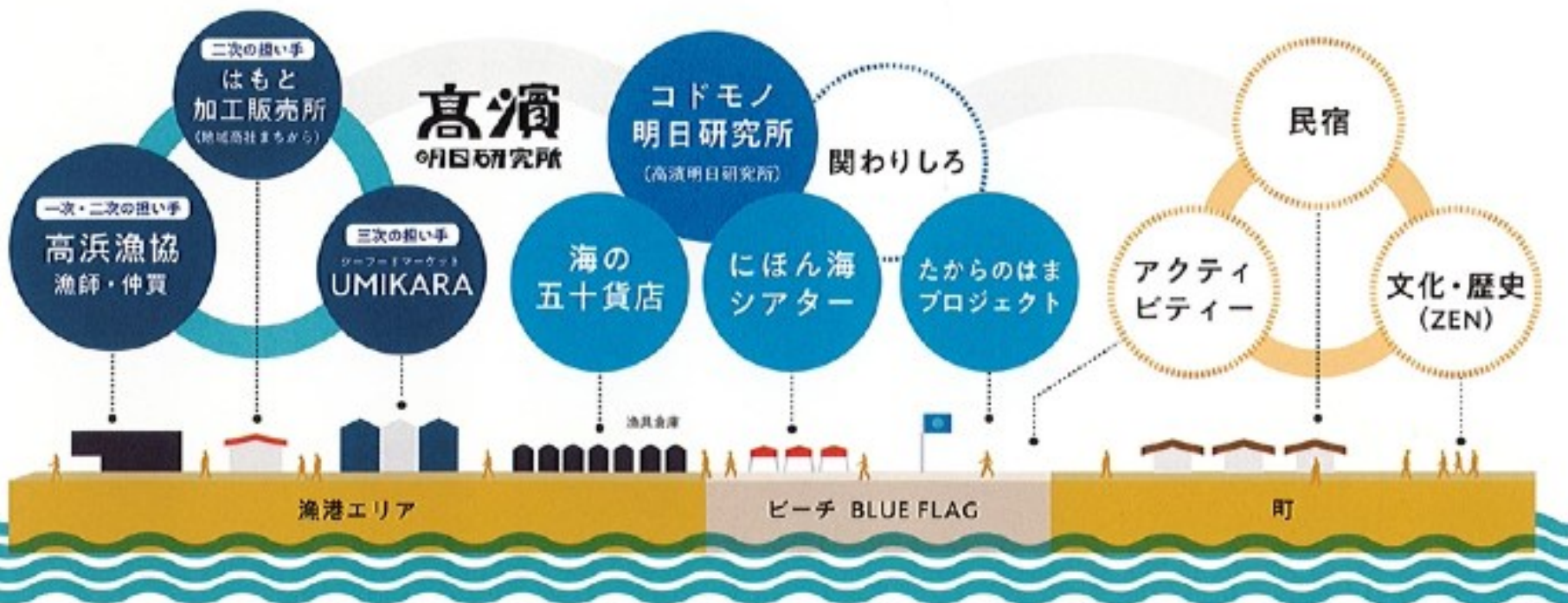
観光・サステナブルツーリズム

水産加工業と仲買業を仕組み化し、
基幹事業とする。また、地域商社として
地域内商品売り、持続可能なまちづくりと
収益事業を推進する。

海の6次産業化に取り組むまちからの強みとして、
水産業の「関わりしろ」を増やすことができる。
また「明日あったらいいな」を考える有志団体
高濱明日研究所と連携することができる。

まちからは地域の中間支援事業者として、
「Wigaiモデル」の推進と、それを活用した
関係人口の創出に取り組み、
ローカルビジネススタートアップを増やす。

海業から町全体へと新たな生業が広がり、
それらを繋ぐことでサステナブルツーリズムが育ち、
観光業の発展を目指す。





漁師小屋PJ「海の五十貨店」の事業化

海辺のにぎわい創出と、創業・生業の場をつくる

合同会社 1 丁目 1 番地

—なぜ今、合同会社1丁目1番地なのか—

塩土には、まだ残っている。

日本海特有の漁師小屋群。現役漁業。漁村文化。若手漁師。地域プレイヤー。

漁師小屋：45 軒

漁師：3 人

34・79・92歳



一方、塩土でおこっていること

- ・空き家・空き地化・低利用化
- ・漁村なのに漁師が3名(担い手不足)
- ・ソトの人との接点がない
(関係人口・交流人口 少)
- ・漁村景観の消失
- ・海際エリアに乗っかれていない漁村

寝る 小屋カルテ No.17 1年目
民宿（1棟貸し）



[keyword]
・漁師小屋に泊まる
・漁村に入るきっかけ
・漁師体験
・まちあるき体験

2026 取得予定

2026 年度予定

買う 小屋カルテ No.12 3年目
チャレンジショップ 物販



[keyword]
・お土産、コンセプト物販
・創業体験
・漁村に入るきっかけ
・コドモノ明日研究所連携等

2028 年度予定

過ごす 小屋カルテ No.26,27 0年目
本と珈琲と水族館



[keyword]
・漁師小屋に余地を
・ぽーっとできる空間
・漁村で魚と触れる
・周辺アクティビティ拡大

2025 取得済

2025 年度開業

釣る 小屋カルテ No.44 0年目
無人釣具屋えびたいしょう



[keyword]
・お客も地元も喜ぶ
・漁師小屋を魅せる
・周辺アクティビティ拡大

2023 取得済

2023 年度開業

食べる 小屋カルテ No.75,76 3年目
1日チャレンジショップ 飲食
(開店日限定/自費で参加)



[keyword]
・魚が食べられる場所
・漁師-加工-来訪者をつなぐ
・創業体験
・漁村に入るきっかけ

2028 年度予定

寝る/楽しむ 小屋カルテ No.86 5年目
宿泊複合施設
(1F 物販/2F 宿泊 1棟貸し)



[keyword]
・特殊なだんだん小屋
・宿泊者と地元の交差点
・漁村に入るきっかけ
・小規模物販が複数店入る

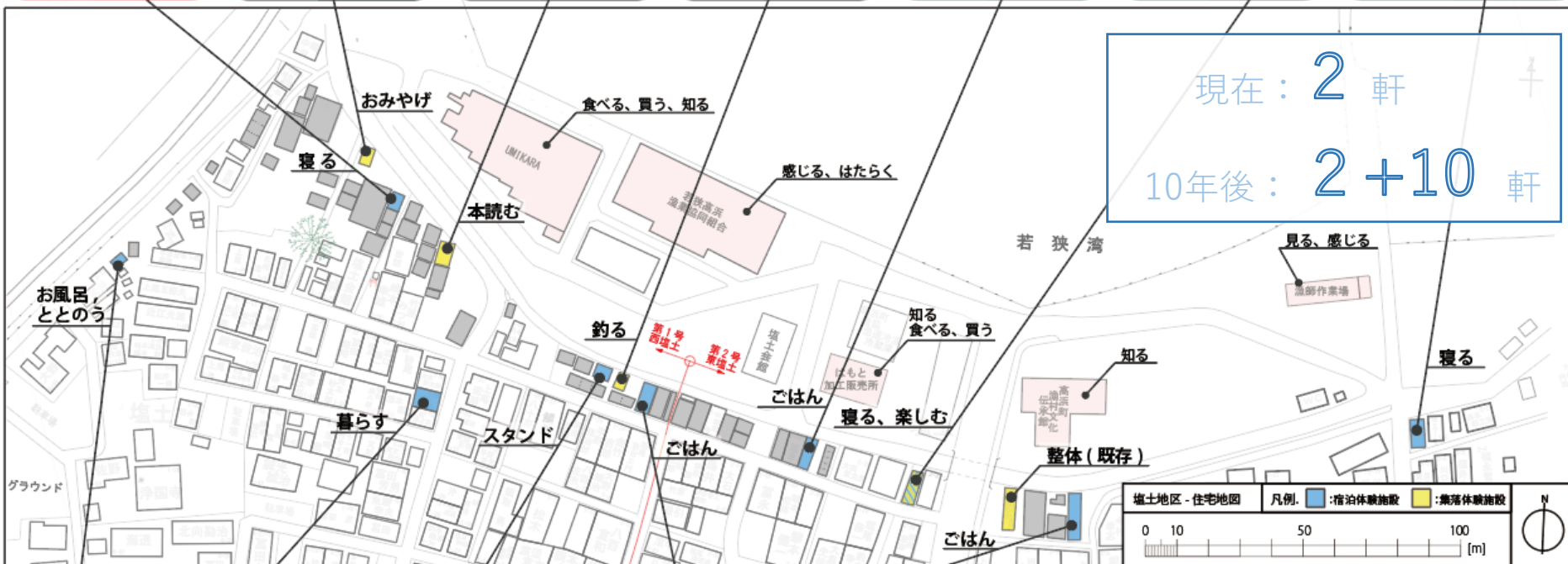
2030 年度予定

寝る 小屋カルテ No.XX 8年目
関係人口拠点一民宿（1棟貸し）



[keyword]
・漁師小屋に泊まる
・漁村に入るきっかけ
・LOOP 拠点
・窓口/案内機能

2033 年度予定



ととのう 小屋カルテ No.1 5年目
小屋サウナ



[keyword]
・若宮海岸利用
・温浴・シャワー拠点
・海に飛び込めるサウナ

2030 年度予定

暮らし 小屋カルテ No.41 (開陸) 5年目
移住体験民家



[keyword]
・漁村に暮らす
・協働する
・移住準備
・創業準備

2026 取得予定

2030 年度予定

呑む 小屋カルテ No.43 3年目
チャレンジショップ(スタンド)



[keyword]
・漁村で呑む
・波返し利用
・食べ呑み歩き
・手軽開業

2028 年度予定

食べる 小屋カルテ No.50,51 5年目
自営事業 飲食店



[keyword]
・魚が食べられる場所
・漁師-加工-来訪者をつなぐ
・漁村に入るきっかけ

2030 年度予定

食べる 小屋カルテ No.101,102 9年目
自営事業 飲食店



[keyword]
・魚が食べられる場所
・漁師-加工-来訪者をつなぐ
・漁村に入るきっかけ
・海がみえる料理店

2034 年度予定

渡り歩く宿泊・観光体験⇄
かつての生業空間で これからの生業をつくる

漁師小屋 海の五十貨店

事業の目的

- ・対町外的には「渡り歩く宿泊・観光体験」機能、対町内的には「チャレンジ&にぎわい・あったらいいな」を整備し、かつての生業空間でこれからの生業をつくる。

- ・自営事業で収益を生みつつ、チャレンジショップを展開して町内外からの創業促進を行う。
- ・この場所に観光客からも居住者からも必要とされるにぎわいをつくる。

目標・10年後の目指す状態

- ・10年間で+10軒の居場所をつくる
- ・若者の創業と定着
- ・関係人口10000人規模
- ・地元の人のにぎわいがソトの人の興味をひく
- ・地域内外でのヒト・お金の動き活発化
- ・海業先進地区

漁師小屋
海の五十貨店

第1弾 鯛取小屋 民宿計画



屋根造形のスペシャリスト

【No.17 / 1-141】

〇〇円(税込み)

敷地面積:49.35㎡

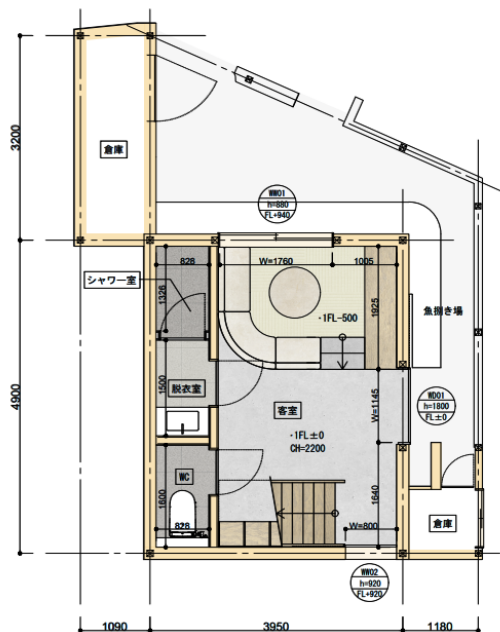
建築面積:29.62㎡

延べ面積:38.71㎡(2階建て部分)+3.49㎡(小屋部分)=42.20㎡

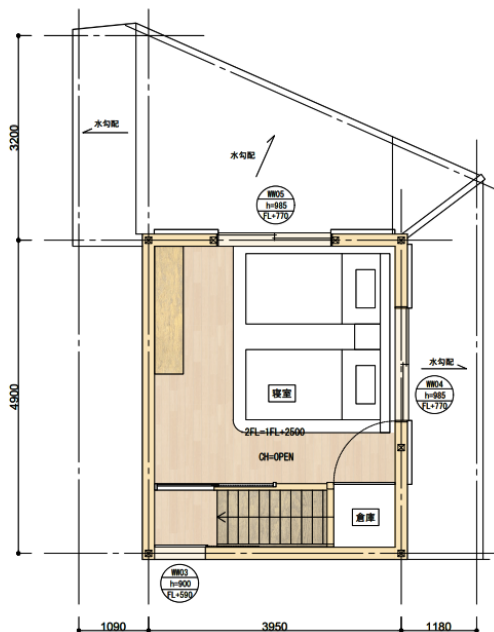
1968年頃

その昔、鯛を獲った漁師が使った漁師小屋。

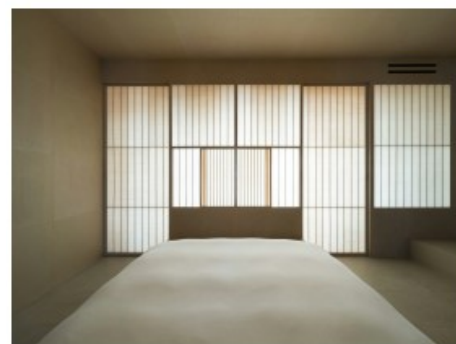
道に対して水平に掛かった下屋の屋根のおかげで、現代では誰もマネできない屋根造形となった。比較的広い小屋面積とユニークな半屋外空間が特徴。



1階平面図



2階平面図

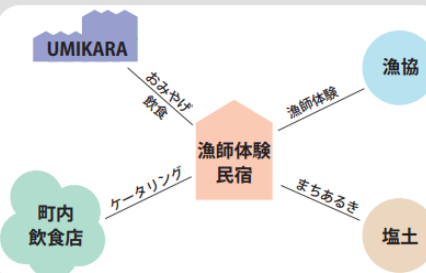


UMIKARA とコラボ

目の前が UMIKARA という好立地。
ランチはうみから食堂で食べて、おみやげも
買って帰れる。

町内飲食店とケータリング連携

町内の飲食店 (UMIKARA 含む) とタイアップし、
ケータリング。高浜のいろんなディナーを体験
できる。



漁師体験で漁協も巻き込む

1週間前までの予約で、同じ宿泊料金で
漁師体験ができる。早起きして漁師の世界を体験し、
自分でとった魚を買って、自分で捌いて食べられる。
食べきれない分は、自宅に郵送も可能。

まちあるきで塩土も巻き込む

宿泊費+1000円で塩土の漁村まちあるきオプション。
昔ながらの漁師町を漁村研究と暮らしの両方の
目線から案内する。

第0弾 これまでの実践



2023年9月開業

無人釣具屋えびたいしょう

- ・釣具屋が海際に必要
- ・観光客も地元も喜ぶ機能



2025年8月開業

本と珈琲と水族館

- ・魚のまちの新しい見せ方
- ・エリアの過ごし方の幅

収益で次々と改修をすすめ、五十貨店をどんどん増やす予定
→マンパワー不足・収益力不足・発信力不足

事業化：運営体制



不動産

うみねこ不動産

荒井 博貴

漁師建築家

RIAS design lab.

藤本 雅広

(株) まちから

名里 裕介

地域商社・魚加工場

経営戦略・ネットワーク

(株) ヨンナナエフ

波多腰 太

Social Media Manager

Florian Koschella

SNS・広報・インバウンド戦略

代表 藤本 雅広

RIAS design lab.代表
漁師建築家

2023年に移住 33歳

設計監修・漁師連携・
空き家活用

漁業・建築・海業を横断

荒井 博貴

うみねこ不動産代表

高浜町役場を退職し
不動産会社設立 53歳

不動産仲介・空き家マ
ッチング・移住接続

人と場所をつなぐ

名里 裕介

株式会社まちから代表

地元Uターン 43歳

地域巻き込み・行政連
携・コミュニティ形成

地域信用・若手連携

波多腰 太

株式会社ヨンナナエフ
代表

高浜町地域再生マネー
ジャー 52歳

企業連携・外部接続・
経理全般

地域外接点・思想翻訳

Florian Koschella

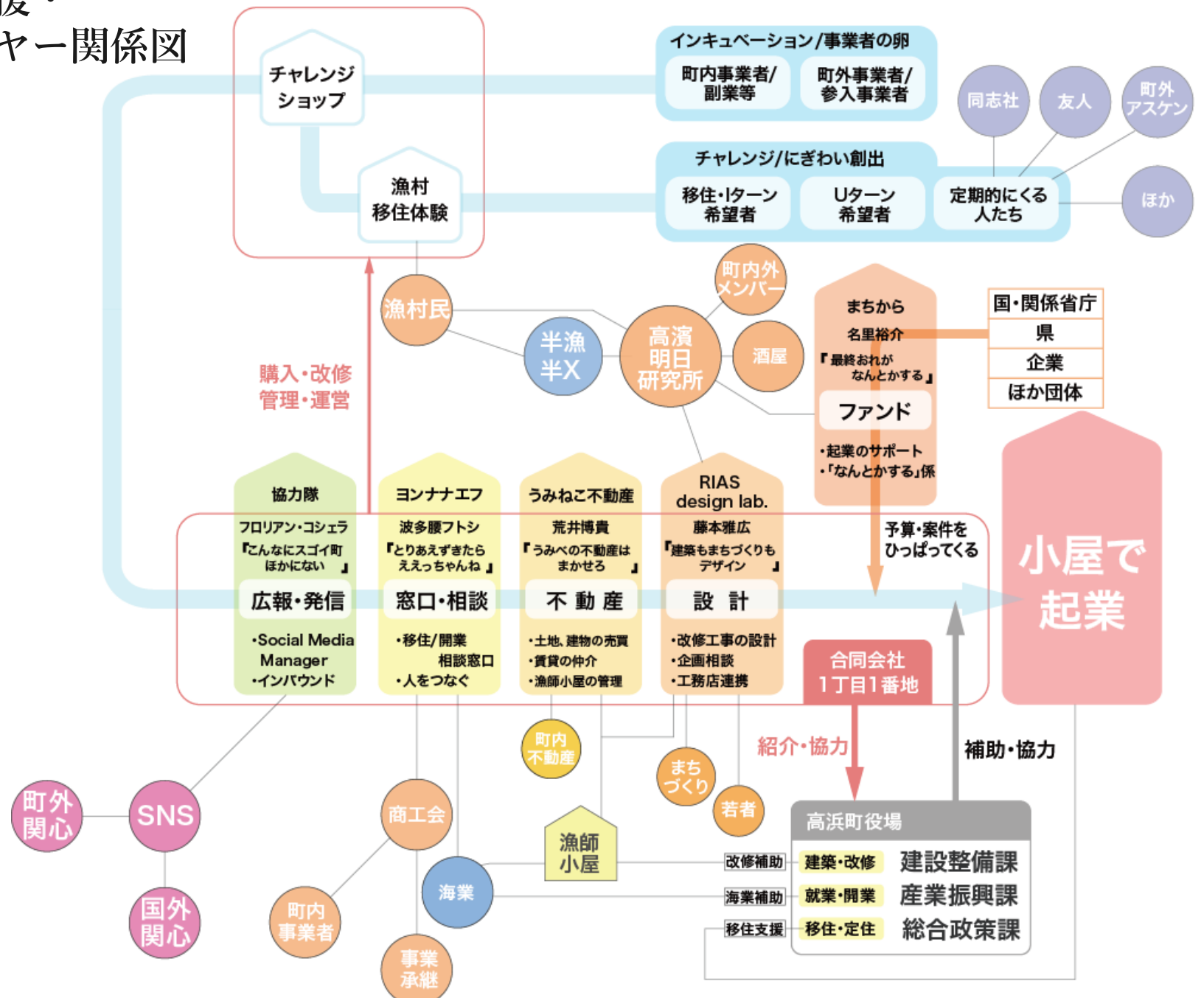
地域おこし協力隊

2025に移住 35歳

SNS広報・
インバウンド戦略

Social media manager

創業支援・プレイヤー関係図





Keyword)

- ・海業推進モデル地区の真価
- ・日本海にしかない漁師小屋
- ・漁村全体を渡り歩く体験
- ・プレイヤーづくり、仲間づくり、創業促進
- ・かつての生業空間がこれからの生業をつくる

漁師小屋 海の五十貨店 プロジェクト

かつての生業空間で、
これからの生業をつくる

漁師小屋民宿

小漁り

水産物

宿泊体験

小漁り

ジキヤ

小漁り

本宿

釣魚

魚市

スタッフ

チャレンジショップ

クラウドファンディング
開催直前！



チェックを
お願いします！

漁師小屋 海の五十貨店

かつての生業空間で、
これからの生業をつくる

漁師小屋 海の五十貨店